

事例研究報告

特別支援学校小学部児童の
意図的に間違えることを繰り返す行動を
適切な行動にするための指導実践

～決められた役割を行うことを目指す～

児童の実態

【対象】

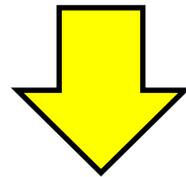
- 上肢下肢麻痺・知的障がい

【日常生活面】

- 座位保持装置付車椅子に乗って生活をしている。
- 無発語であるが、日常生活で使用する言葉は理解している。
- 授業のあいさつはVOCAを使ってできる。
(VOCAは利き手の左手で押す)
- 「冬はSRCウォーカーで歩かない」「学校で排尿しない」などの自分ルールを決める等のこだわりがある。
- 教員と1対1で行う学習では、好子（本・iPad）があれば行うことができる。
- お笑いや一発芸等の面白いことが大好きである。

教員の願い

集団やクラス（教員2名，児童2名以上）の活動になると，わざと正解とは反対の選択肢を選んで相手の反応を楽しんだり，活動をしなくなったりすることが多い。



（教員の願い）

決められた役割の中で
適切な行動をしてほしい。



方法

指導場面：1時間目 朝の会（司会）

標的行動：「VOCAを5回押して進行する」

1. はじめのあいさつ
2. 先生のお話
3. 給食発表
4. 出席
5. おわりのあいさつ

評価基準：ひとりで押す・・・2点
教員の支援ありで押す・・・1点
支援ありでも押さない・・・0点

達成基準：3/5回以上ひとりで押すことができる（3日連続）

指導の手続き～介入前～

①：教員が「〇〇くんお願いします」と言い、VOCAを対象児の机上に置く。



②-1：対象児が自発的にVOCAを押す。

※トークン制のポイント（シール）を渡す。

②-2：10秒以内に押す行動が見られない場合は身体的プロンプトを行う。

※支援ありで押せた場合はポイントを渡さない。



③：ポイントが3つたまったらご褒美（iPadアプリのeプリンタで印刷ができる）を渡す。

①～③の手続きは、標的行動の1～5の場面全てで行う。

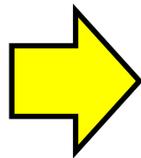
しかし・・・

VOCAを机上に提示すると「腕をわざと机から下におろす」「頑なに腕に力を入れて押そうとしない」などVOCAを自ら押す姿が見られなかったため介入Ⅰを行った。

「プロンプトを見直す」

【Before①】

- プロンプトを行う基準を作っていなかった。



【Before②】

- 子どもの動きに合わせて大量のプロンプトを出していた。

【After①】

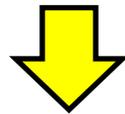
- プロンプトのタイミングを3段階に。
 - 1段階・・・(左手が机より下にあったら)
教員が腕をテーブルの上に上げる
 - 2段階・・・(左手をVOCAに近づけなかったら)
教員が手をVOCAに近づける
 - 3段階・・・(VOCAを押そうとしなかったら)
教員がVOCAを押す

【After②】

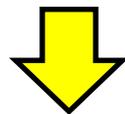
- 対象児の動きを見て、少ない量のプロンプト(例:肘にかかるくふれる等)から行う。

指導の手続き～介入Ⅰ～

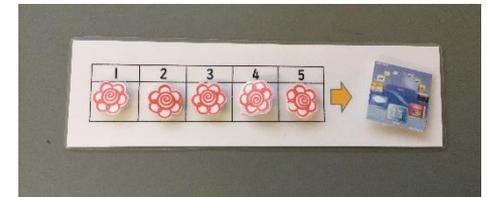
①教員が「〇〇くんお願いします」と言い、VOCAを
対象児の机上に置く。



②対象児が自発的にVOCAを押す。
※押す行動が見られない場合は、3段階に分けたプロンプトを行う。



③教員がポイント（シール）を渡す。
※支援ありで押せた場合もポイントを渡す。

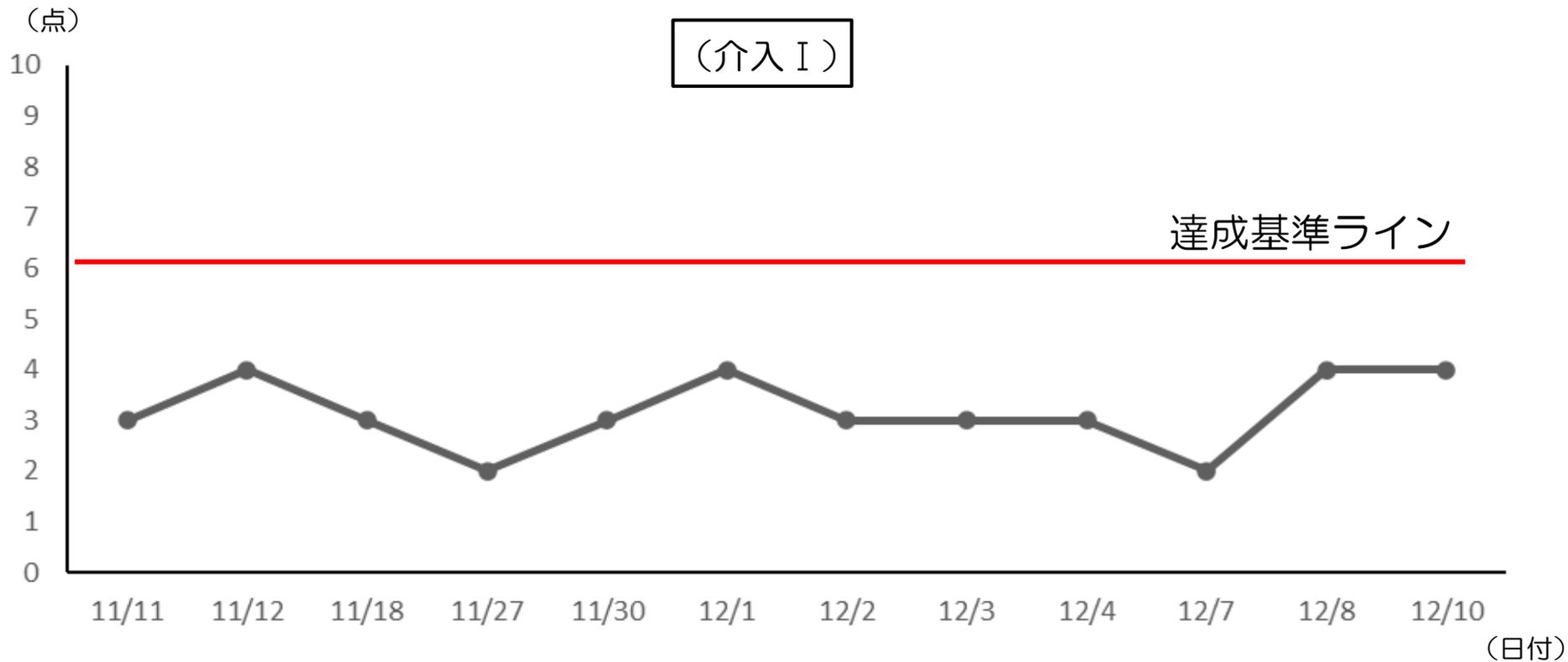


④5つポイントがたまったら、朝の会の終了時にご褒美を渡す。

①～③の手続きは、標的行動の1～5の場面全てで行う。⁷

結果～介入Ⅰ～

朝の会でVOCAを押せた合計得点



○朝の会でVOCAを押して進行する回数・・・5回

- ・ひとりで押す・・・2点
- ・教員の支援ありで押す・・・1点
- ・支援ありでも押さない・・・0点

介入Ⅰの結果から

- プロンプトを変更しても、VOCAを自発的に押す機会はあまり増えなかった。
- 朝の会が終わった後にご褒美（好子）を設定するのでは行動とご褒美までの間隔が遠く、ご褒美として機能していないのでは？

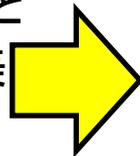
アドバイザーからの助言

「好子を設定するタイミングを変更する」

【Before①】

- 朝の会でVOCAを5回押すことができれば、終了後にご褒美を渡す。

※ご褒美（iPadのアプリ
eプリンタで印刷ができる）



【After①】

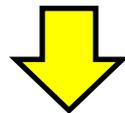
- 1回VOCAを押すごとにご褒美を渡す。
 - ご褒美の内容を変更する。
- ※ご褒美（教員が絵本におもしろいツッコミをいれる、教員が一発芸をする）

指導の手続き～介入Ⅱ～

①教員が「〇〇くんお願いします」と言い、VOCAを対象児の机上に置く。



②対象児が自発的にVOCAを押す。
※押す行動が見られない場合は、3段階に分けたプロンプトを行う。



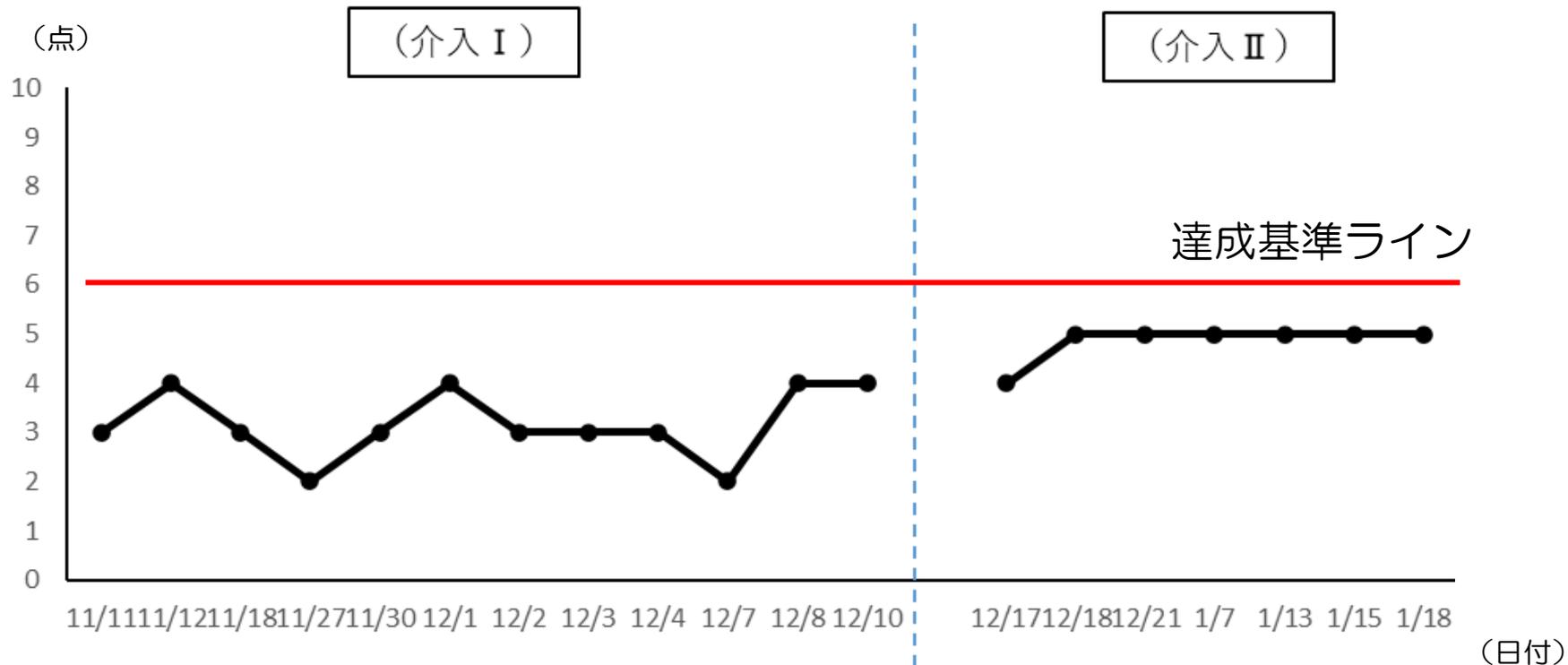
トークンシステム→即時強化に変更

③教員がご褒美（絵本におもしろいツッコミをする、一発芸）を渡す。
※支援ありで押せた場合もご褒美を渡す

①～③の手続きは、標的行動の1～5の場面全てで行う。

結果～介入Ⅱ～

朝の会でVOCAを押せた合計得点



○朝の会でVOCAを押して進行する回数・・・5回

- ・ひとりで押す・・・2点
- ・教員の支援ありで押す・・・1点
- ・支援ありでも押さない・・・0点

結果～介入Ⅱ～

標的行動1～5の場面でVOCAを押せた表

(標的行動)

(介入Ⅰ)

(介入Ⅱ)

5	○	○	○	○	○	○	○	P	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	P	○	○	○	○	○	○	○	○
3	○	○	P	P	P	○	○	○	○	P	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	P	○	P	P	○	○	P	○	P	P	P	○	○	○	○	○	○	○	○
1	P	P	○	P	P	P	P	P	P	P	○	P	P	○	○	○	○	○	○
日付	11/11	11/12	11/18	11/27	11/30	12/1	12/2	12/3	12/4	12/7	12/8	12/10	12/17	12/18	12/21	1/7	1/13	1/15	1/18

(日付)

○朝の会でVOCAを押して進行する回数・・・5回

- ・ひとりで押す・・・+
- ・教員の支援ありで押す・・・○
- ・支援ありでも押さない・・・P

結果のまとめ

- ・ 行動の後すぐにご褒美があると、支援ありでVOCAを押す回数が増えた。
- ・ 朝の会で支援ありでVOCAを押す行動が標的行動4. 5の時に多かった。



指導ポイント

今後、本児が適切に行動するためには…



- 好子を入れるときは即時強化で指導をする。
- 本児が自発的に行動しようとするための適切な好子を見つける。
- 苦手な活動を行う場合は、活動する順番を最初の方ではなく後ろに設定する。